

# 公開シンポジウム 所得・資産のジェンダー格差克服のため の金融リテラシー教育の方向性 —ジェンダー、ジェネレーション、キャズム

2025年9月26日



昭和女子大学専門職大学院  
福祉社会・経営研究科  
福祉共創マネジメント専攻



金融経済教育推進機構  
(J-FLEC)

# 内容とスケジュール

- 18:30-18:35 挨拶 坂東眞理子 昭和女子大学総長（ビデオ）
- 18:35-18:45 イントロダクション「日本における所得・資産と金融経済リテラシーのジェンダー格差」  
太田行信 昭和女子大学専門職大学院特命教授
- 18:45-19:00 報告①「大学生・若者の金融リテラシーの現状—金融テストとアンケートを通じて見える心理的・行動的特徴の男女差」  
島義夫 LEC会計大学院客員教授、市民グループ「良質な金融商品を育てる会」（フォスター・フォーラム）理事
- 19:00-19:15 報告②「女子大における金融教育の現場報告」  
永沢裕美子 フォスター・フォーラム世話人、お茶の水女子大学非常勤講師
- 19:15-19:30 報告③「金融経済教育の課題と今後の展望」  
大友佳子 金融経済教育推進機構（J-FLEC）理事
- （休憩10分）
- 19:40-20:15 報告者によるパネルディスカッション「これからの金融経済教育推進の方向性—金融経済リテラシーのキャズムを超えるために」
- 20:15-20:30 参加者とパネリスト間の質疑応答（Zoomチャットから質問を隨時受付けます）

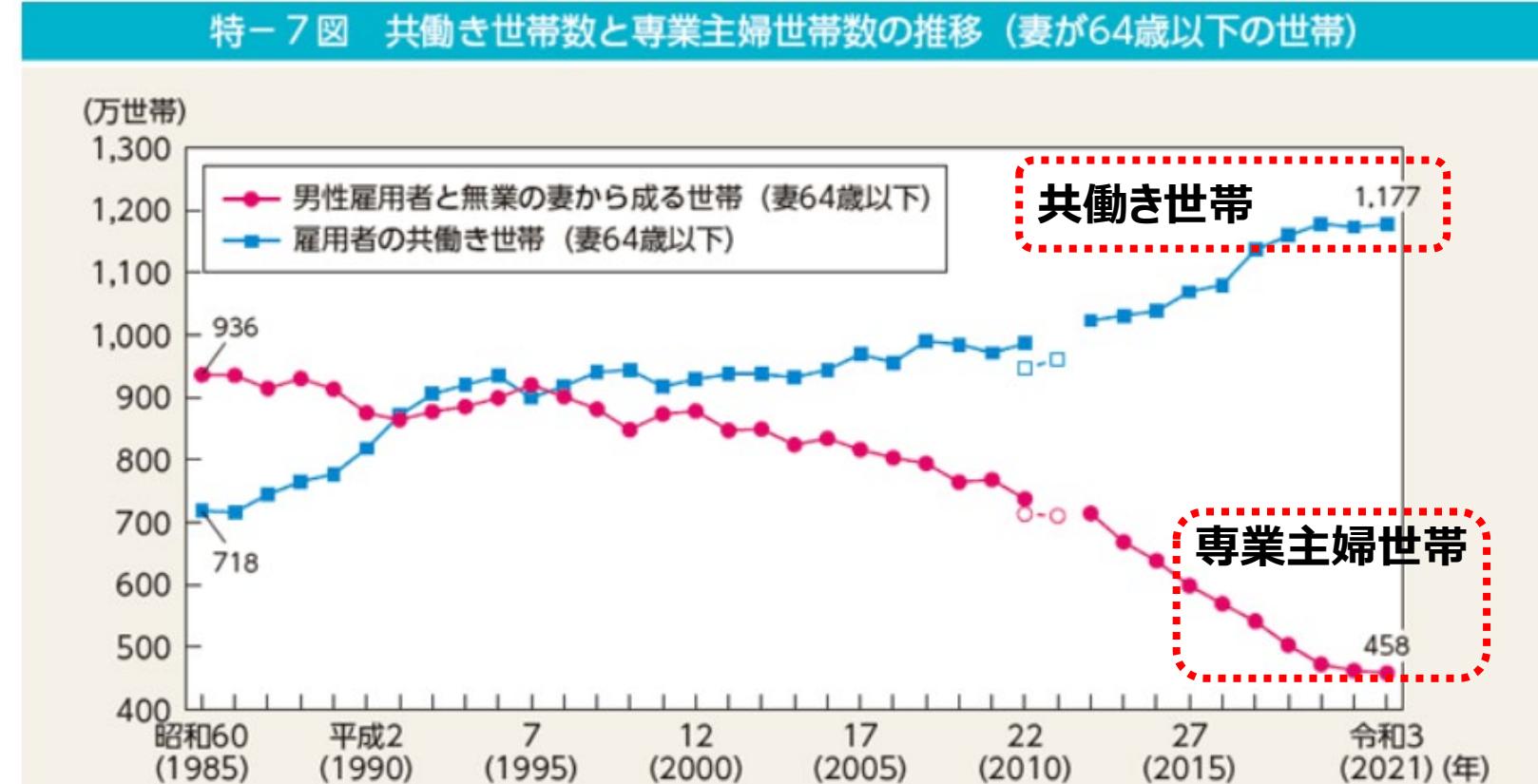
## イントロダクション

所得と資産のジェンダー格差

日本の現状と国際比較

# 所得・資産の ジェンダー格 差：共働き世 帯の増加

今世紀に入ってから、  
共働き世帯は専業主  
婦世帯を上回り続け  
て、2.6倍になってい  
て今や共働き世帯が  
約72%と圧倒的多  
数派に

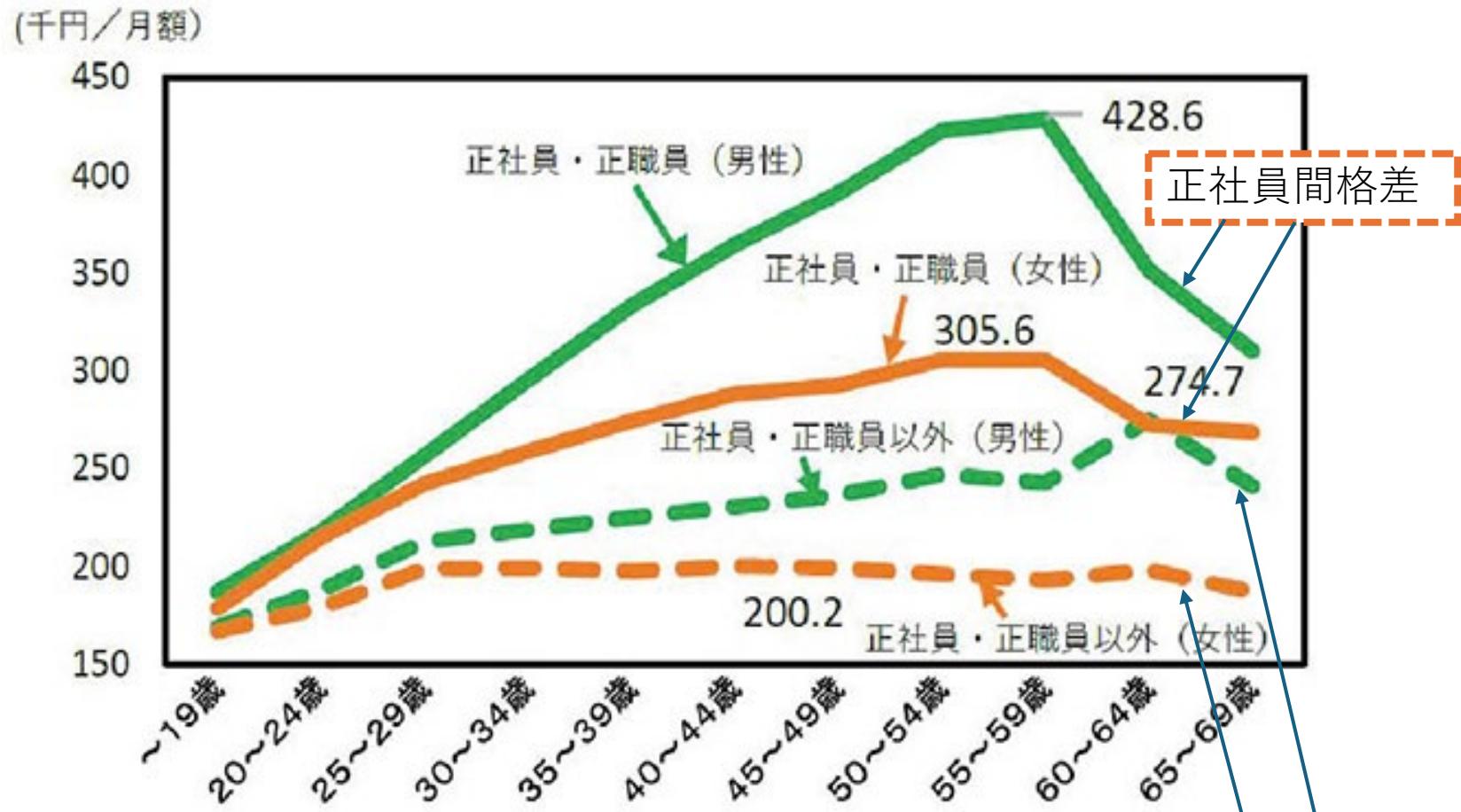


妻が64歳以下の共働き世帯数と専業主婦世帯数の推移 1985年～2021年  
内閣府男女共同参画局「令和4年版 男女共同参画白書」より  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r04/zentai/html/zuhyo/zuhyo00-07.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/html/zuhyo/zuhyo00-07.html)

# 所得・資産の ジェンダー格 差：賃金格差

正社員・非正社員ともに、男女で賃金に大きな格差あり  
→年金所得の格差につながる真因

## 男女間賃金格差（所定内給与額、令和3年）



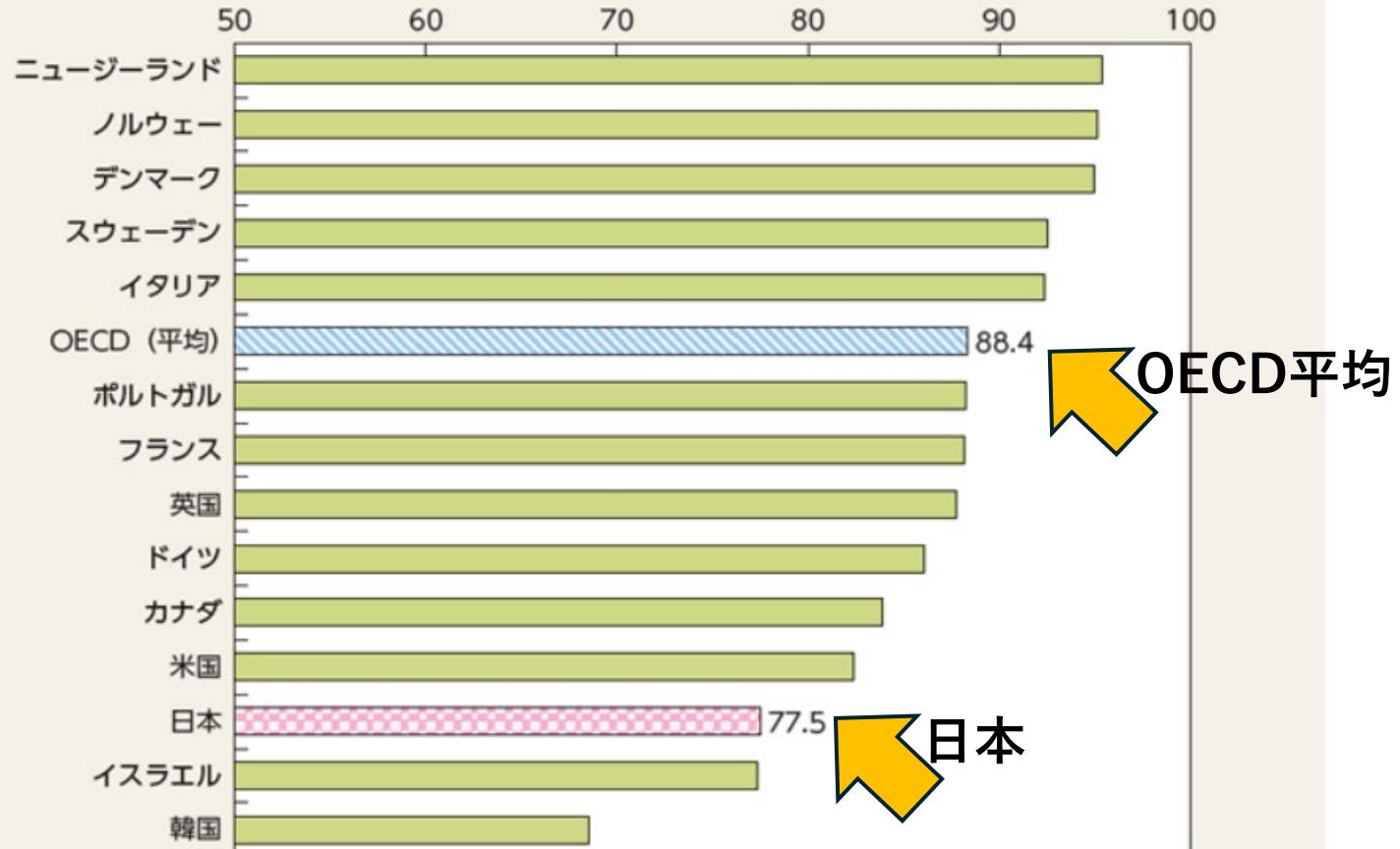
内閣府男女共同参画局「共同参画」2022年7月号より  
<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202207/pdf/202207.pdf>

非正規社員間  
格差

# 所得・資産の ジェンダー格 差：男女の賃 金格差の国際 比較

国際的にみても、日  
本の男女賃金格差  
は大きい。  
(男性フルタイム労働者賃金  
の中央値=100)

○男女間賃金格差を国際比較すると、男性のフルタイム労働者の賃金の中央値を100とした場合の女性のフルタイム労働者の賃金の中央値は、OECD諸国の平均値が88.4であるが、我が国は77.5であり、我が国の男女間賃金格差は国際的に見て大きい状況にあることが分かる。

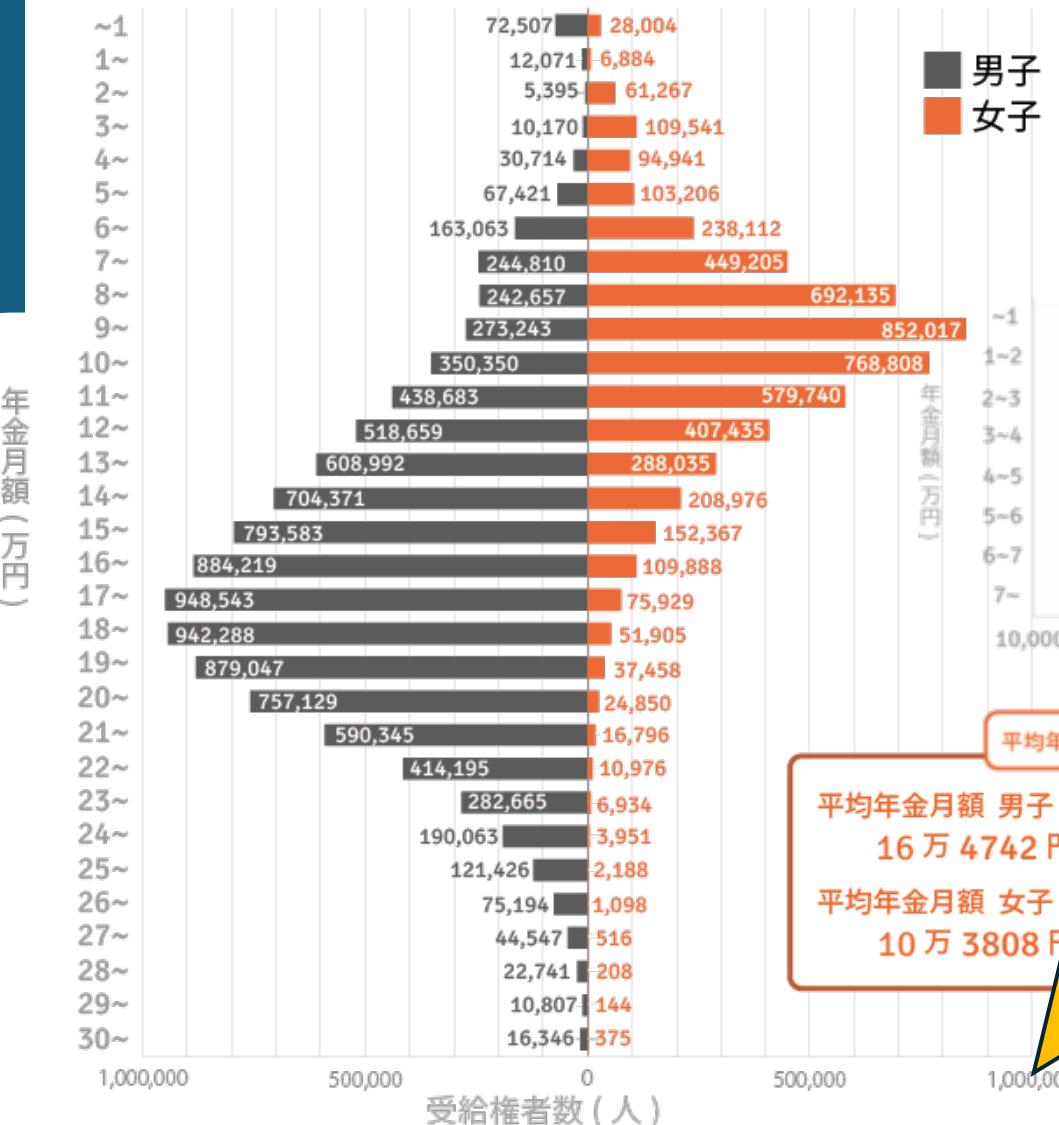


内閣府男女共同参画局「令和4年版 男女共同参画白書」より  
[https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/r04/zenbai/html/zuhyo/zuhyo02-12.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zenbai/html/zuhyo/zuhyo02-12.html)

# 所得・資産の ジェンダー格 差：男女の年 金所得格差

全国民強制加入かつ定額給付である国民年金では男女格差は大きくはないが、所得比例である厚生年金では現役時代の賃金格差を反映して、男女で大きな差がある。

厚生年金保険(第1号)  
男女別・年金月額階級別受給権者数  
(令和2年末現在) 男子: 1071万6244人  
女子: 538万3889人  
※年金月額には基礎年金月額を含みます



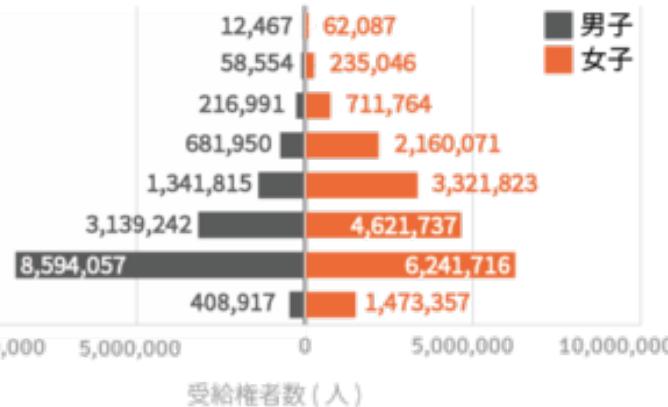
<https://limo.media/articles/-/32637?page=2>

[https://limo.media/articles/-/32637?page=3#goog\\_rewar ded](https://limo.media/articles/-/32637?page=3#goog_rewar ded)

## 国民年金

男女別・年金月額階級別受給権者数

(令和2年末現在) 男子: 1445万3993人  
女子: 1882万7601人



「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」をもとに LIMO 編集部作成

厚生労働省「令和2年度 厚生年金保険・国民年金事業の概況」をもとに LIMO 編集部作成

平均年金月額 男子: 16万4742円 平均年金月額 女子: 10万3808円

平均年金月額 男子:  
16万4742円

平均年金月額 女子:  
10万3808円

## 国民年金

男性 22.3万円  
女性 15.8万円

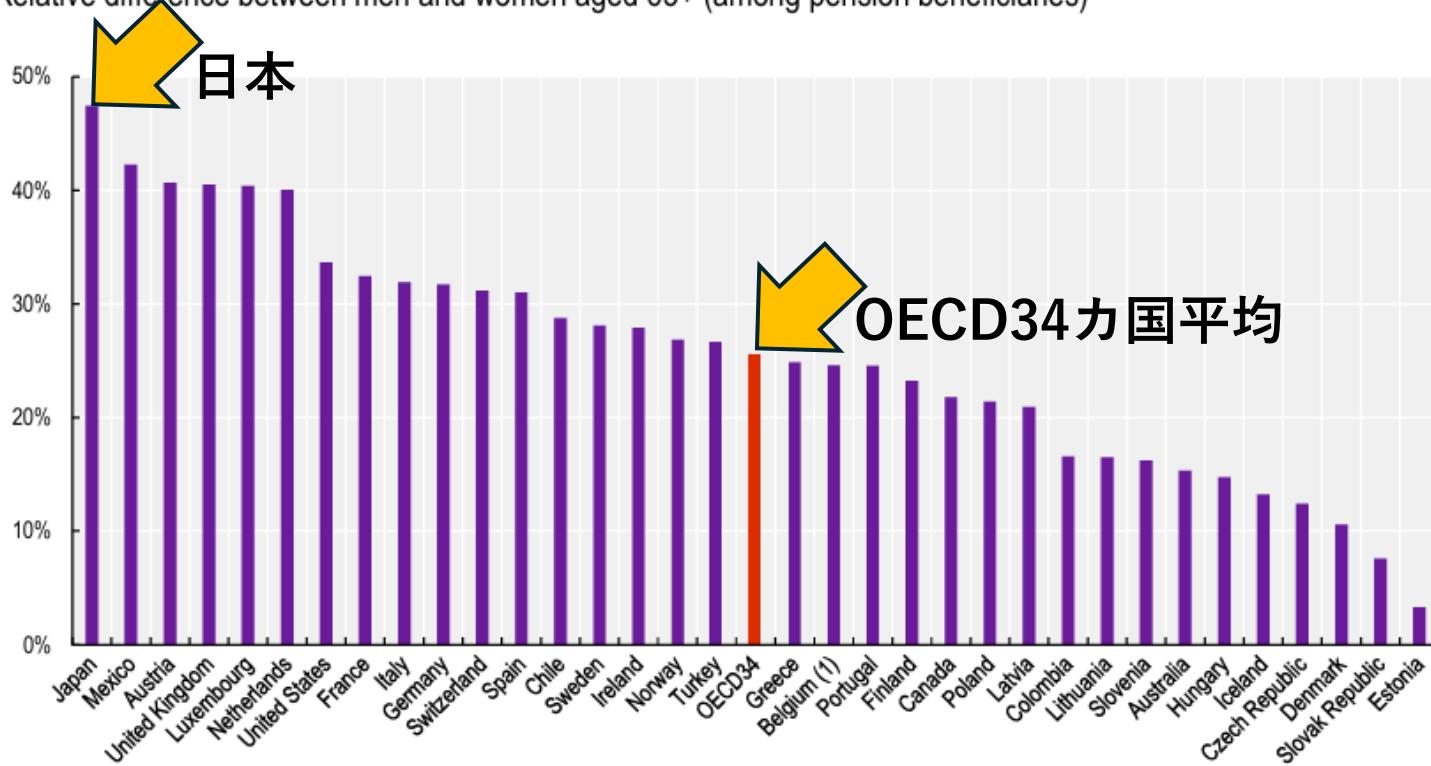
## 厚生年金

# 所得・資産の ジェンダー格 差：男女の年 金格差の国際 比較

**65歳以上の男女の国別  
年金所得格差では、国  
際的にみても、日本の年  
金所得の男女格差は非  
常に大きい**  
(65歳以上の年金所得；男性に  
対する女性の受給額差の比率  
→0は男女格差なし)

Figure 1.1. Gender gap in pensions in selected OECD countries, latest year available

Relative difference between men and women aged 65+ (among pension beneficiaries)



Note: The gender gap in pensions is calculated as the difference between the mean retirement income of men and women (aged 65+) over the mean retirement income of men (aged 65+), among pension beneficiaries. Calculations are based on the LIS, except for: France, Latvia and Portugal where the HFCS (Wave 3) was used; and Iceland, Sweden and Turkey where results come from the EU-SILC (published on Eurostat's website). Data come from the latest available survey, conducted in: 2013 for Japan, Luxembourg, the Netherlands, Norway and the Slovak Republic; 2014 for Australia; 2015 for Hungary and Slovenia; and after 2015 for all the other countries. Data refer to 2017 for Iceland and 2018 for Turkey. (1) In Belgium when partner A's pension rights are less than 25% of those of partner B, the pension of A is not paid out and B receives a family pension (calculated at 75% of wages instead of 60%).

Source: OECD calculations based on the LIS and the HFCS; Eurostat (for the EU-SILC).

## イントロダクション

**金融リテラシーのジェンダー格差**

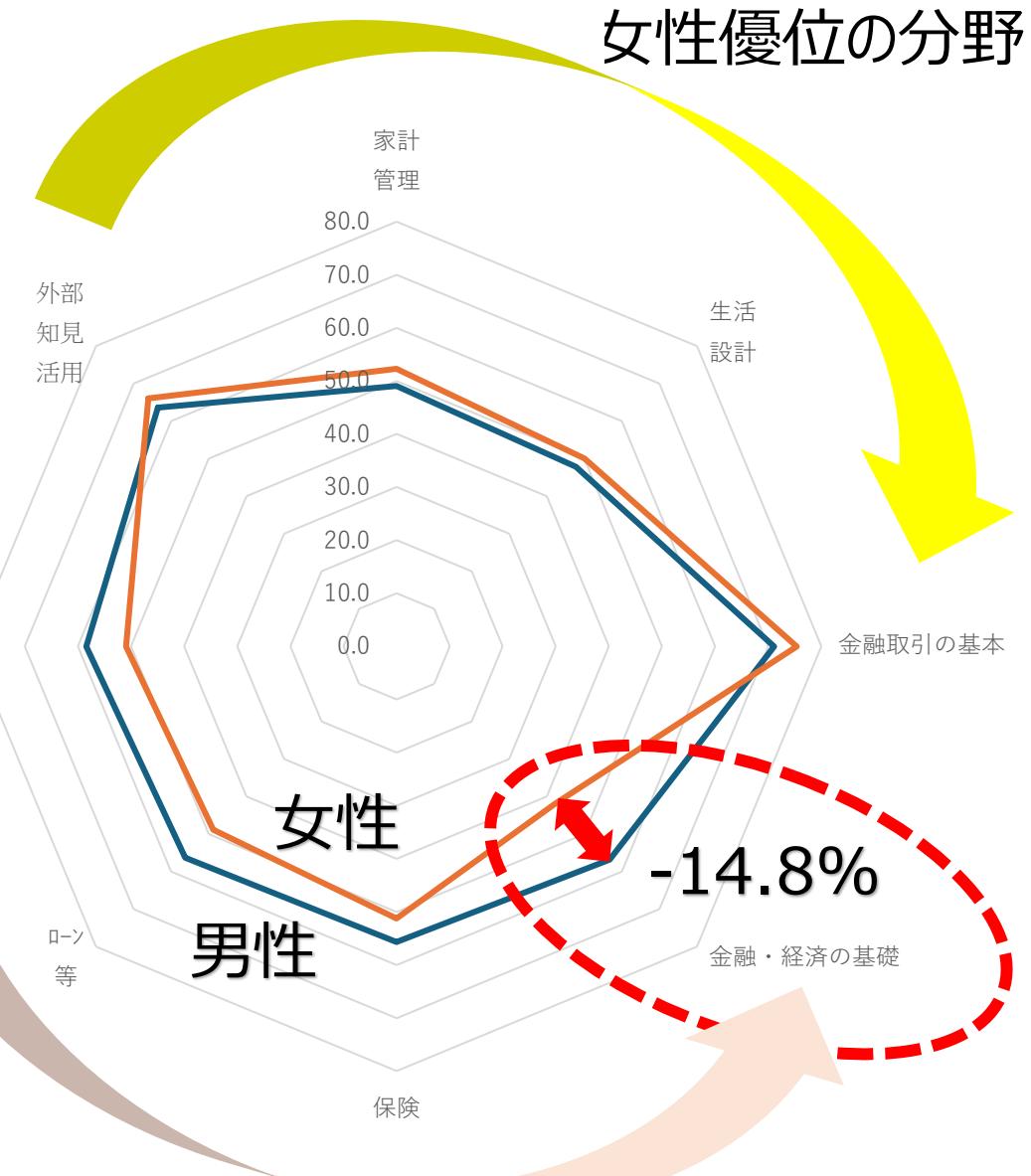
**日本の現状**

# 金融リテラシーのジェンダー格差：全体

全体正答率で女性は男性より4.6点低かった。特にファイナンス分野の「金融・経済の基礎」（金利計算、債券取引、市場取引等にかかる設問）で大きな差（▼14.8%）がついた。

正答率	
男性	58.0
女性	53.4
差	▼4.6

男性優位の分野

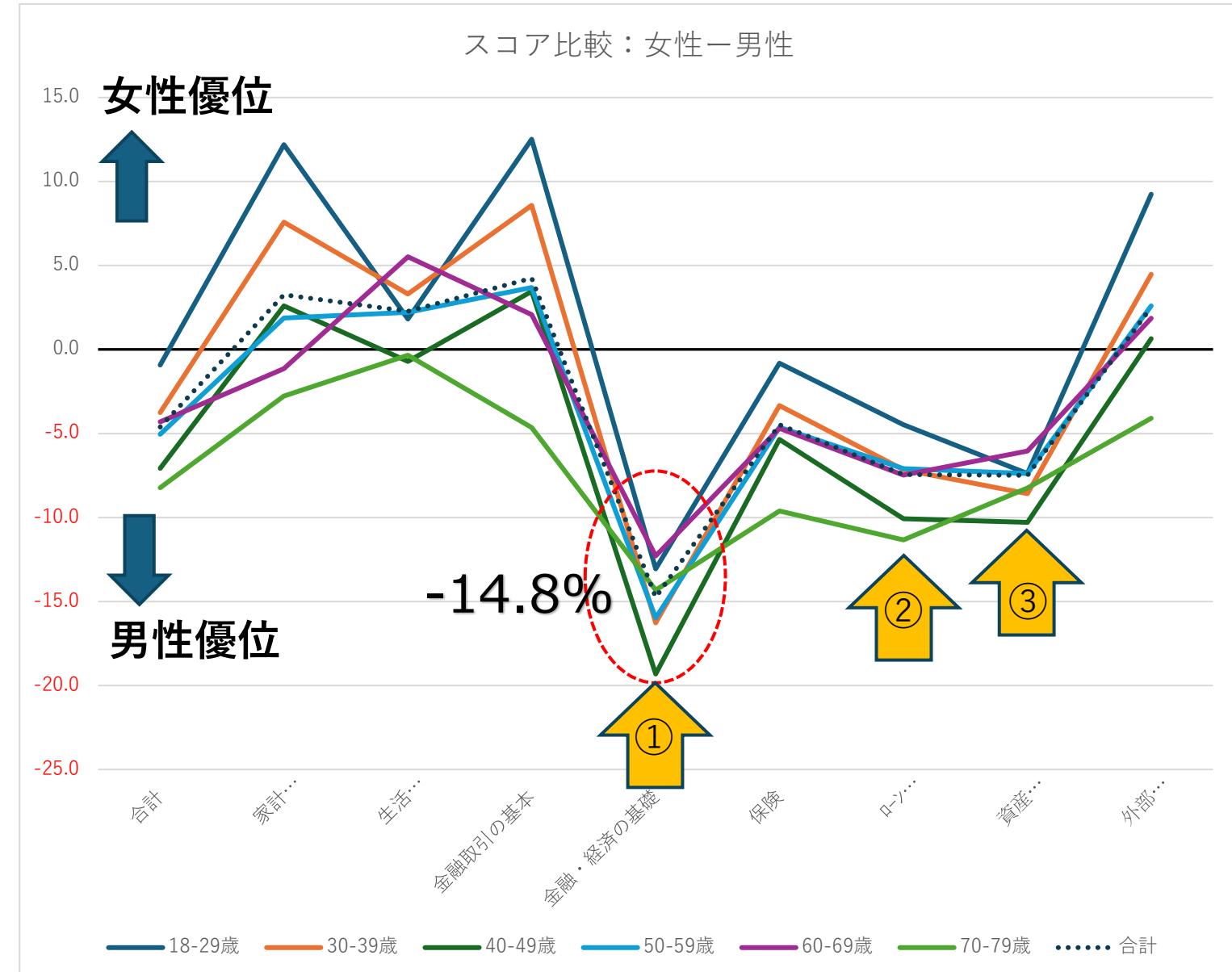


「金融リテラシー調査2022年」（金融広報中央委員会）のデータより筆者作成（以下のスライドも同じ）

[https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy\\_chosa/2022/pdf/22lite\\_toukeir.xlsx](https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/literacy_chosa/2022/pdf/22lite_toukeir.xlsx)

# 金融リテラシーのジェンダー格差：年代別

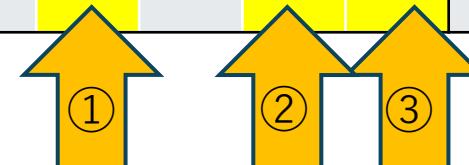
**ジャンル別年代別男女格差：若い世代は高齢世代よりも概ね良好であるが、ファイナンス分野の「金融・経済の基礎」項目は全年代で振るわない：  
▼13.1%～▼19.3%**



# 金融リテラシーの男女格差

## 1. ジャンル別：全体正答率

性別	合計	金融知識									外部 知見 活用
		家計 管理	生活 設計	金融 取引 の基 本	金融・ 経済 の基 礎	保険	ローン 等	資産 形成 商品	外部 知見 活用		
		25問	2問	2問	3問	6問	3問	3問	3問		
男性	58.0	49.0	47.8	71.1	56.8	55.7	56.3	58.4	63.6		
女性	53.4	52.3	50.1	75.4	42.0	51.2	48.8	50.9	66.1		
合計	55.7	50.7	49.0	73.3	49.3	53.4	52.5	54.7	64.8		
差	-4.6	+3.3	+2.3	+4.2	-14.8	-4.5	-7.4	-7.5	+2.5		



「金融リテラシー調査2022年」（金融広報中央委員会）のジャンル別年代別男女格差：若い世代は高齢世代よりも概ね良好であるが、ファイナンス分野の「金融・経済の基礎」は全世代で振るわない（▼13.1%～▼19.3%）。

## 2. ジャンル別：年代別（女性-男性）の差

女性-男性	合計	家計 管理	生活 設計	金融取引 の基本	金融・ 経済 の基 礎	保険	ローン 等	資產 形成 商品	外部 知見 活用
18-29歳	-0.9	12.2	1.8	12.5	-13.1	-0.8	-4.5	-7.4	9.2
30-39歳	-3.8	7.6	3.3	8.6	-16.3	-3.3	-7.2	-8.6	4.5
40-49歳	-7.1	2.6	-0.7	3.5	-19.3	-5.4	-10.1	-10.3	0.6
50-59歳	-5.0	1.9	2.2	3.7	-16.0	-4.6	-7.1	-7.4	2.6
60-69歳	-4.3	-1.1	5.5	2.1	-12.3	-4.7	-7.5	-6.1	1.9
70-79歳	-8.2	-2.8	-0.3	-4.6	-14.3	-9.6	-11.3	-8.2	-4.1
合計	-4.6	3.3	2.3	4.2	-14.8	-4.5	-7.4	-7.5	2.5

## 3. 10%以上の差がある個別問題

金融・経済の基礎							ローン等	資産形成商品	
Q18	Q19	Q20	Q21 -1	Q22	Q23	Q31	Q21 -4	Q33	
男性 74.1	52.9	63.1	71.6	29.8	49.1	49.6	57.8	40.7	
女性 62.0	32.4	47.4	55.1	17.4	37.9	32.3	42.8	36.5	
差 -12.2	-20.5	-15.6	-16.6	-12.5	-11.2	-17.3	-14.9	-4.1	

# 男女で正答率差が大きかった設問：[女性-男性] の差（降順）

ワースト正答率差の質問：100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。利息にかかる税金は考慮しないでご回答ください。

ジャンル	質問番号	質問文	選択肢	全体	男性	女性	差
① 金融知識 金融・経済の基礎 複利についての理解	Q19	では、5年後には口座の残高はいくらになっているでしょうか。利息にかかる税金は考慮しないでご回答ください。（1つだけ） 【必須入力】 【Q18を受けての質問】	1. 110万円より多い 2. ちょうど110万円 3. 110万円より少ない 4. 上記の条件だけでは答えられない 5. わからない	42.5 20.8 11.4 9.4 15.9	52.9	32.4	-20.5
② 金融知識 ローン・クレジット 複利（72の法則）についての理解	Q31	10万円の借入れがあり、借入金利は複利で年率20%です。返済をしないと、この金利では、何年で残高は倍になるでしょうか。 （1つだけ）【必須入力】	1. 2年末満 2. 2年以上5年末満 3. 5年以上10年末満 4. 10年以上 5. わからない	3.4  40.8 16.1 2.6 37.0	49.6	32.3	-17.3
① 金融知識 金融・経済の基礎 インフレーションについての理解	Q21-1	次の文章が正しいかどうかをご回答ください。（1つずつ）【必須入力】 1. 高インフレの時には、生活に使うものやサービスの値段全般が急速に上昇する	正しい 間違っている わからない	63.3 7.5 29.2	71.6	55.1	-16.5

なお、米国においても基本的な金融知識テスト（ビッグ3と呼ばれる、複利計算、インフレ理解、分散投資）には、成人でも大学生でも正答率は低く、特に「複利計算」（例：100ドルを複利2%で5年間預けるといらになるか）でつまずく回答者が多く、単純な利息と複利の区別ができるないケースも多いと報告されている。

Lusardi, A., Mitchell, O. S., & Curto, V. (2010), *Financial Literacy among the Young*, Journal of Consumer Affairs, 44(2), 358–380; Lusardi, A., & Mitchell, O. S. (2008), *Planning and Financial Literacy: How Do Women Fare?*, American Economic Review, 98(2), 413–417.

## 男女で正答率差が大きかった設問（2）：【女性－男性】の差（降順）

ジャンル	質問番号	質問文	選択肢	全体	男性	女性	差
① 金融知識 金融・経済の基礎 インフレーションと購買力	Q20	インフレ率が2%で、普通預金口座であなたが受け取る利息が1%なら、1年後にこの口座のお金を使ってどちらの物を購入することができると思いますか。（1つだけ） 【必須入力】	1. 今日以上に物が買える 2. 今日と全く同じだけ物が買える 3. 今日以下しか物が買えない 4. わからない	4.3 7.7 <b>55.2</b> 32.9	<b>63.1</b>	<b>47.4</b>	<b>-15.7</b>
③ 金融知識 資産形成 資産形成における分散	Q21-4	1社の株を買うことは、通常、株式投資信託（※）を買うよりも安全な投資である→※何社かの株式に投資する金融商品	正しい 間違っている わからない	6.1 <b>50.2</b> 43.6	<b>57.8</b>	<b>42.8</b>	<b>-15.0</b>
① 金融知識 金融・経済の基礎 預本金利についての理解	Q18	100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。それ以外、この口座への入金や出金がなかった場合、1年後、口座の残高はいくらになっているでしょうか。 利息にかかる税金は考慮しないでご回答ください。（1つだけ） 【必須入力】○万円	102万円 102万円以外 わからない	<b>68.0</b> 10.2 21.8	<b>74.1</b>	<b>62.0</b>	<b>-12.1</b>
① 金融知識 金融・経済の基礎 金利が変化した際の判断	Q23	金利が上がっていくときに、資金の運用（預金等）、借入れについて適切な対応はどれでしょうか。（1つだけ） 【必須入力】	1. 運用は固定金利、借入れは固定金利にする 2. 運用は固定金利、借入れは変動金利にする 3. 運用は変動金利、借入れは固定金利にする 4. 運用は変動金利、借入れは変動金利にする 5. わからない	5.4 7.5 <b>43.4</b> 2.4 41.2	<b>49.1</b>	<b>37.9</b>	<b>-11.2</b>

## イントロダクション

金融リテラシーのジェンダー格差

海外ではどうか？

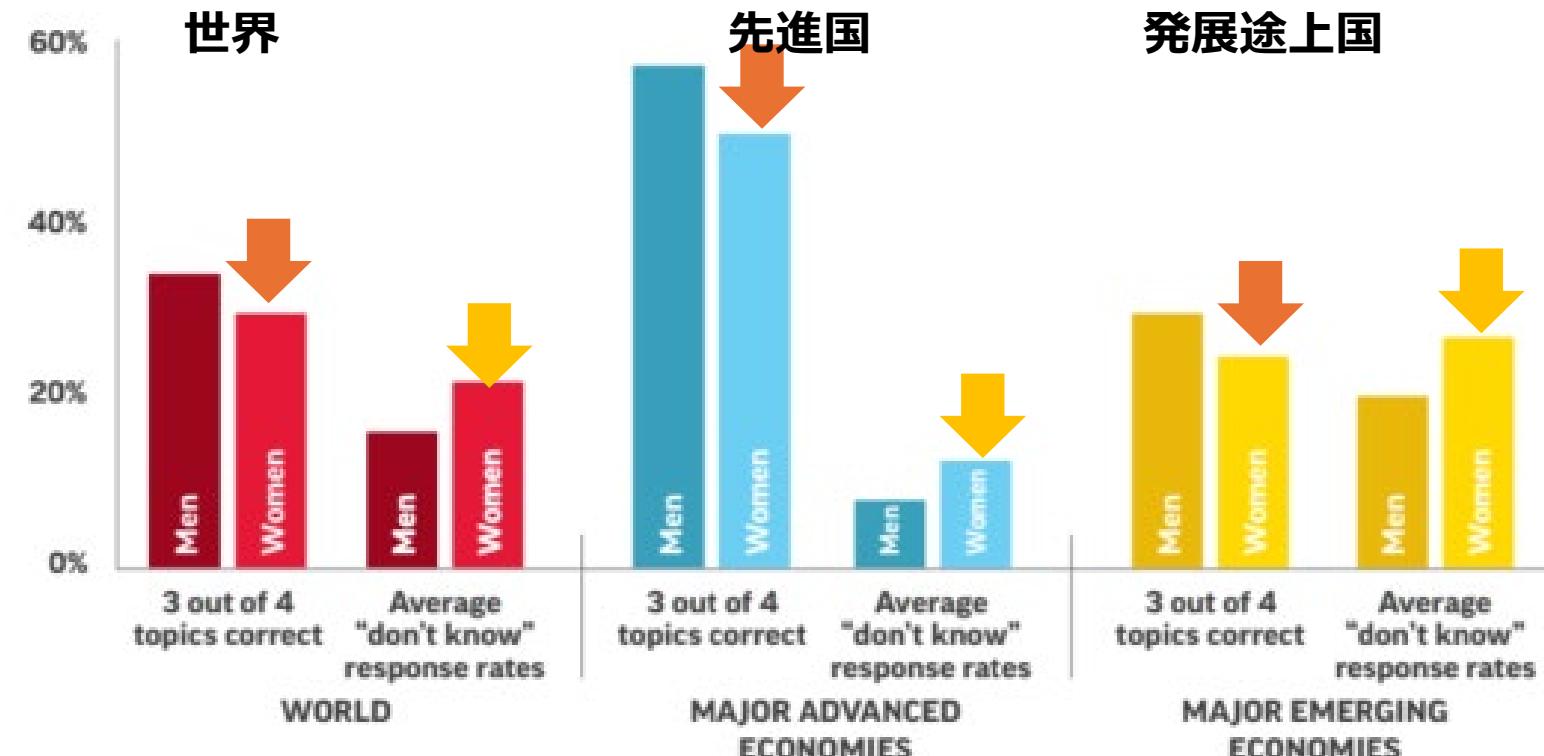
# 金融リテラシーのジェンダー格差：世界の金融リテラシー格差(S&P2023調査)

“女性および貧困層における金融リテラシーの低さ

金融リテラシーの水準は、性別、教育レベル、所得、年齢といった属性によって大きく異なる。世界全体で見ると、男性の35%が金融リテラシーを有しているのに対し、女性は30%にとどまる。女性は金融リテラシーに関する質問に正答する割合が男性よりも低いだけでなく、「わからない」と回答する傾向も高い。この傾向は他の研究(Lusardi and Mitchell, 2014)でも一貫して確認されている。

このジェンダーギャップは、先進国・新興国のいずれにおいても見られる(図5参照)。年齢、国、教育水準、所得といった要素を考慮しても、女性の金融スキルは男性よりも劣っている。“

FIGURE 5: WOMEN TRAIL MEN IN FINANCIAL LITERACY  
(% OF ADULTS WITH CORRECT OR "DON'T KNOW" ANSWERS)



Note: Major advanced and emerging economies are listed in Figure 1.

Source: S&P Global FinLit Survey.

Financial Literacy Around the World:  
INSIGHTS FROM THE STANDARD & POOR'S RATINGS SERVICES GLOBAL FINANCIAL LITERACY SURVEY

<https://gflec.org/initiatives/sp-global-finlit-survey/>

# 金融リテラシー のジェンダー格差： 世界の金融 リテラシー格差 (OECD2023調 査)

この調査では男女差はほぼ無  
しという結論

全体平均  
女性59.2 vs. 男性61.6  
→ 差-2.3

OECD平均  
女性61.5 vs. 男性64.0  
→ 差-2.6

性別：参加国および経済圏全体の平均では、男性の金融リテラシーは女性よりもわずかに高いが、その差は非常に小さく(100点中2点未満)にとどまっている。  
金融リテラシーにおける性差の多くは、金融知識における性差によって説明されるが、金融態度や行動に関する性差は非常に小さい。  
エストニア、フィンランド、ギリシャ、ヨルダン、ルクセンブルク、サウジアラビア、スウェーデンでは、他の社会人口統計的特性を考慮した後でも、金融知識スコアの性差が10点以上となっている(付属書Dの表2.9を参照)。

[https://www.oecd.org/en/publications/oecd-infe-2023-international-survey-of-adult-financial-literacy\\_56003a32-en.html](https://www.oecd.org/en/publications/oecd-infe-2023-international-survey-of-adult-financial-literacy_56003a32-en.html)

# 金融リテラシーのジェンダー格差：15歳時点では格差はない (PISA2022調査)

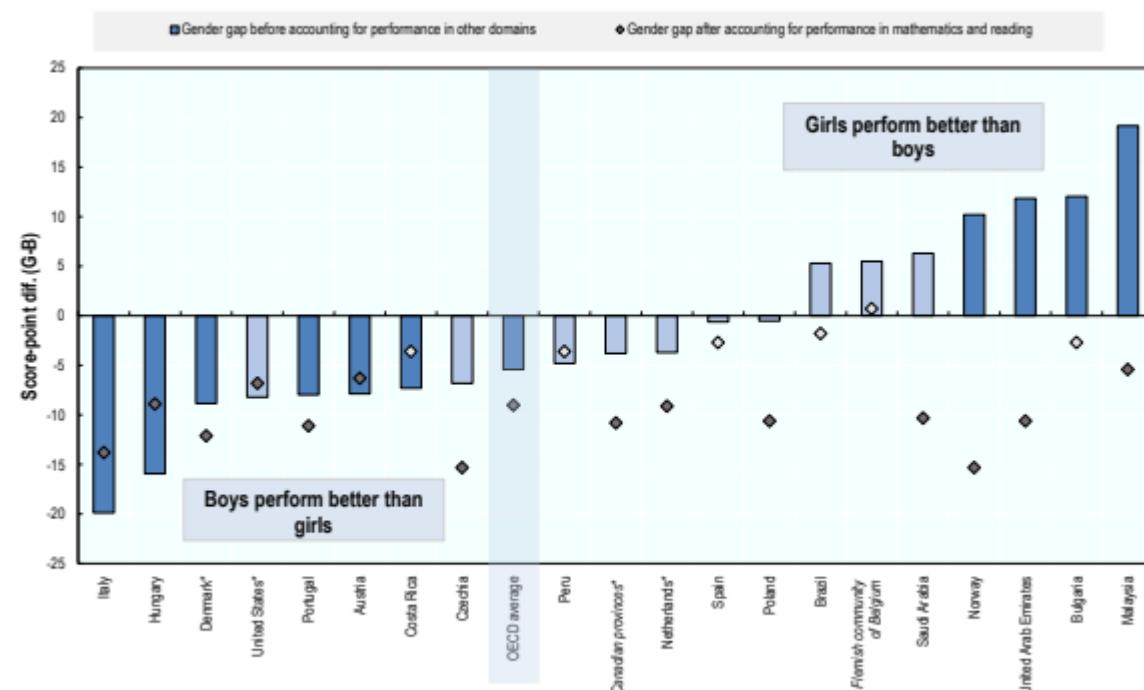
PISA 2022 Results  
How Financially Smart Are Students?

[https://www.oecd.org/en/publications/pisa-2022-results-volume-iv\\_5a849c2a-en.html](https://www.oecd.org/en/publications/pisa-2022-results-volume-iv_5a849c2a-en.html)

OECD諸国・地域全体の平均で観察された男女間のスコア差は、統計的には有意であるものの、女子の中央値が499点、男子が505点であることを踏まえると、その差は5点にとどまり小さいものであり、男子と女子がこなせる課題の種類に明確な差があることを示すものではない。  
また、すべての参加国・経済圏を通じて平均すると、性別による差は見られなかつた(図 IV.3.2 参照)。

Figure IV.3.2. Gender differences in financial literacy performance

Score-point difference between girls and boys



Note: Statistically significant gender differences are shown in a darker tone (see Annex A3).

Countries are ranked in ascending order of the gender gap in financial literacy performance before accounting for performance in other domains.

Source: OECD, PISA 2022 Database, Table IV.B1.3.8.

# 金融リテラシーのジェンダー格差：金融経済リテラシー格差がもたらすもの

世界中を対象にしたイタリアの大学教員の論文

"Assessing gender gaps in financial knowledge and self-confidence: Evidence from international data":

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1544612321002695>

- 女性は、調査対象となったすべての国において、男性よりも著しく低い金融知識スコアを示している。
- また、自身の金融能力に関する過信および過小評価においても、男女間に有意な差が見られる。
- これらの差は、観察可能な男女の属性差によって説明されない。
- その大部分は、観察できない行動的要因や、ジェンダー役割に関する社会規範によるものである可能性が高い。

先行研究により、金融知識の乏しい個人は、金融市場への参加率が低く、高コストの借入れや不利な金融契約にさらされる傾向があり、予期せぬ金銭的的困難への耐性も低いことが示されている。

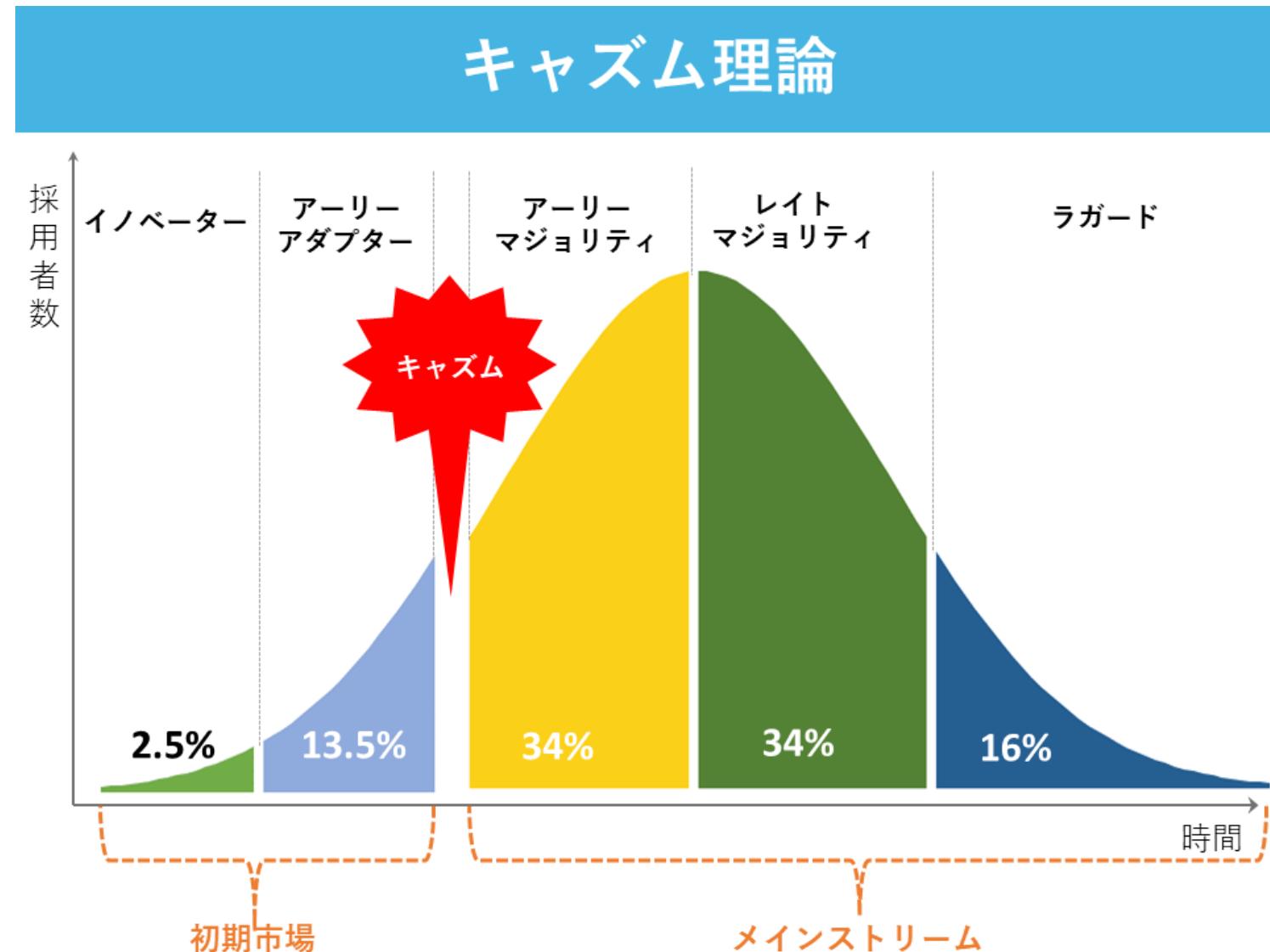
特に、金融リテラシーの低い女性は、標準的な金融資産であっても投資に消極的であり、長期的な資産形成に困難を抱え、老後の生活設計に失敗する傾向がある。

これに、現役時の労働所得の低さおよび平均寿命の長さが重なることで、女性は男性よりも顕著に高い老後貧困リスクにさらされている。

さらに、女性は男性に比べて、金融知識に関する質問に対し「わからない」と回答する傾向が強く、これは単なる知識の欠如というよりも、質問内容に対する自信の欠如を反映している可能性がある。

実際に、女性は「わからない／回答拒否」の選択肢を選ぶ傾向が男性よりも高く、客観的な金融知識における観察上のジェンダー格差のほとんどは、このような非ランダムな選好に起因するバイアスにより生じていることが示されている。

# キャズムとは



キャズム理論とは、主に製品の技術進化の激しい「ハイテク業界」において、新製品が世に出た際に、市場に普及するために超える必要のある顧客層の違いについて説いたもの。イノベーター理論におけるイノベーターとアーリーアダプターを含む「初期市場」と、アーリーマジョリティからラガードまでを「メインストリーム市場」との間に、キャズムchasmと呼ばれる市場に製品を普及させる際に超えるべき障害が存在しており、これを乗り越えることが市場を広く開拓するうえで重要だとする。

⇒金融リテラシーの向上に向けて、キャズムをいかに克服するか？